

年 報 ・ 紀 要

令和 3 年度

半田市立博物館

目 次

年 報

1. 施設概要	2
2. 組織図	3
3. 半田市博物館協議会	
(1) 協議会委員	3
(2) 協議会日程	3
4. 展示活動	
(1) 企画展示	4
(2) その他の展示	14
(3) 山車展示	15
5. 教育普及活動	
(1) 博物館講座・講演会等	15
(2) 視察及び見学	16
(3) 半田市内小学校3年生の見学学習	16
6. 資料の収集・整理・保存	
(1) 刊行物の寄贈	16
(2) 資料寄贈	17
(3) 収蔵資料点数	18
7. 半田市立博物館友の会活動	19
8. 文化財保護事業	
(1) 文化財専門委員会	19
(2) 文化財の保護	19
(3) 保存修理・保存施設整備補助事業	21
(4) 旧中埜家住宅保存管理事業・保存活用事業	22
9. 入館者数	23

1. 施設概要

【所在地】 半田市桐ヶ丘4-209-1

【開館】 昭和59年10月1日

【敷地面積】 10,318.40 m² 【建築面積】 3,425.27 m²

【延床面積】 5,151.48 m² 【博物館】 1,881.50 m²

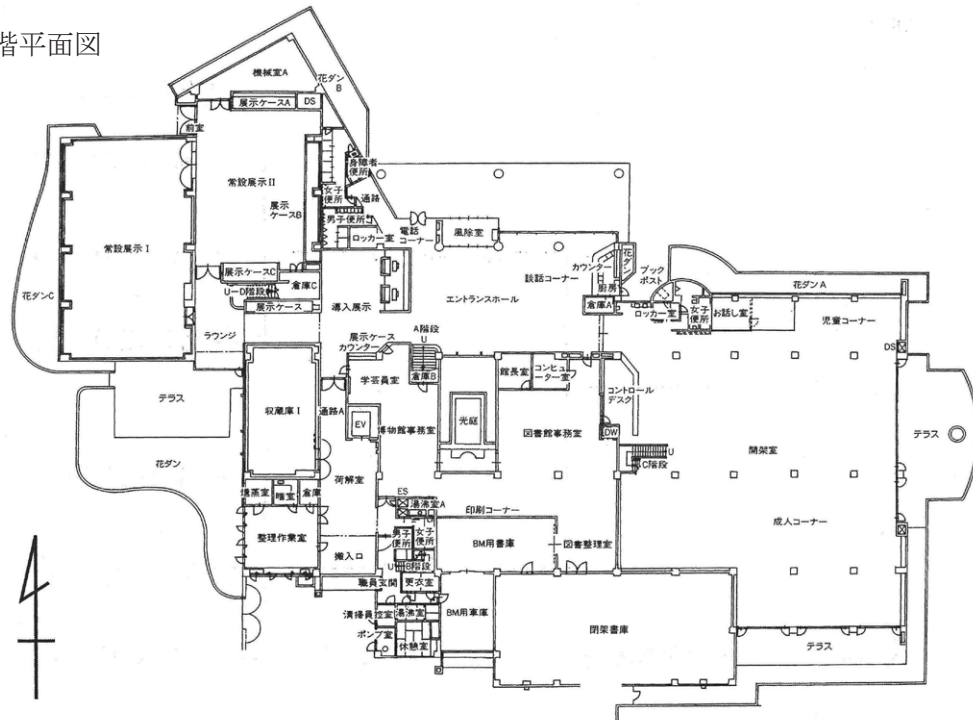
【構造】 鉄筋コンクリート造 2階建 塔屋1階

【館内施設】 (図書館との共有部分を含む)

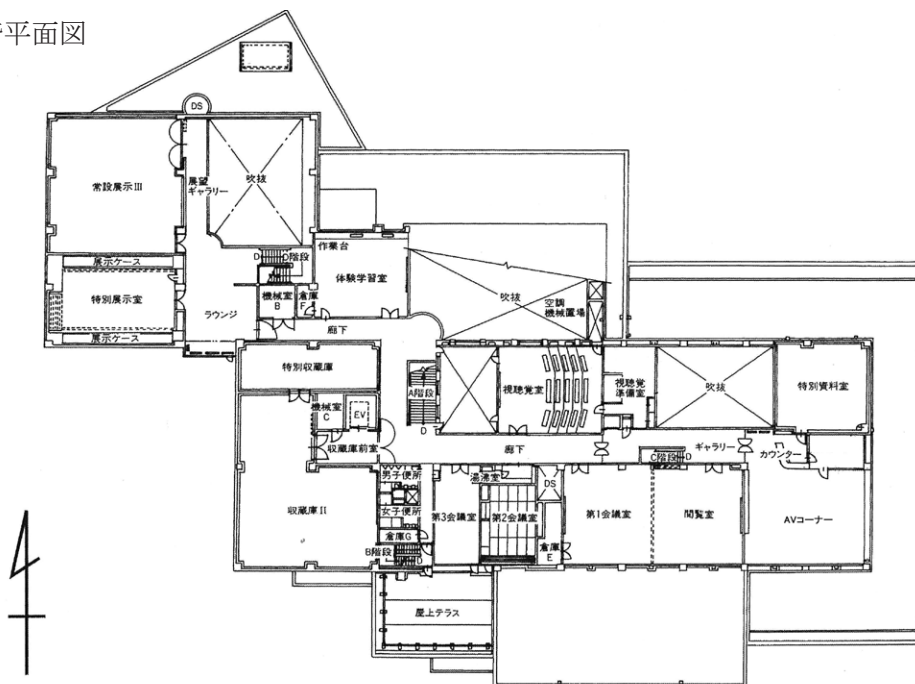
1階 常設展示室Ⅰ、常設展示室Ⅱ、収蔵庫Ⅰ、燻蒸室、整理作業室、事務室など

2階 常設展示室Ⅲ、特別展示室、体験学習室、特別収蔵庫、収蔵庫Ⅱ、視聴覚室など

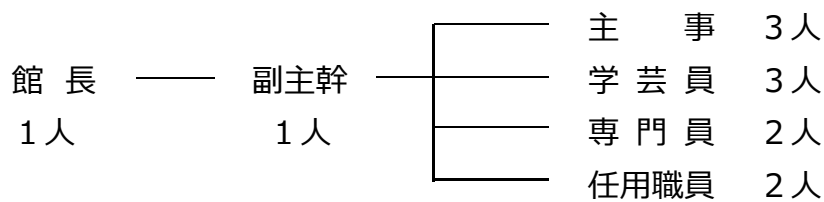
1階平面図



2階平面図



2. 組織図（令和 3 年 4 月 1 日現在）



3. 半田市博物館協議会

半田市博物館協議会は、博物館法第 20 条の規定により設置され、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関である。

半田市立博物館条例第 11 条の規定に基づき、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験者の中から教育委員会が任命する。（定員 10 人、任期 2 年）

（1）協議会委員（令和 3 年 9 月 1 日）

氏 名	分 野	摘 要
井手 満枝	社会教育関係者	博物館友の会会長
佐野 景子	学識経験者	桐塑人形作家
柴垣 勇夫	学識経験者	元愛知淑徳大学教授
立松 彰	学識経験者	東海市立平洲記念館・郷土資料館前館長
藤堂 正喜	学校教育関係者	半田市小中学校社会科研究部長
新美 玲子	家庭教育の向上に資する活動を行う者	伝統文化お茶お花子ども教室主催
本美 信一	社会教育関係者	半田市文化協会理事
松見 直美	観光振興関係者	知多半島観光圏協議会事業推進事務所前所長

（2）協議会日程

日 程：令和 3 年 10 月 15 日（金）

会 場：半田市立博物館 第 3 会議室

議 題：・会長、副会長の選任について

- ・令和 2 年度事業等報告並びに令和 3 年度事業計画及び予算について
- ・半田市立博物館展示整備基本方針について
- ・その他

4. 展示活動

(1) 企画展示

「第 36 回知多工芸展」

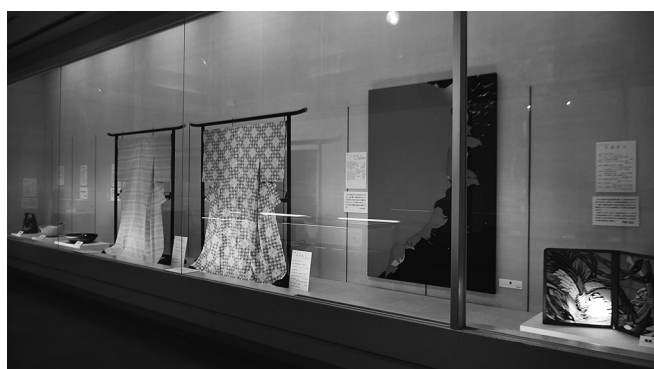
期 間：令和3年4月17日（土）～6月13日（日）

会 場：特別展示室（2階）、展示コーナー（1階）

入場者数：11,683 人

展示内容：知多半島の工芸作家（陶芸・人形・染織・ガラス
工芸）29 名の作品を展示した。

展示点数：34 点



出品作品一覧

部 門	氏 名	作 品 名
陶 芸	伊藤 雄志	練込大鉢
	片岡 誠	自然釉水指
	加藤 真美	Form
	鯉江 廣	あけぼの彩扁壺／金彩花紋り文茶鉢
	小出 芳弘	灰釉盤
	小西 洋平	真焼茶注三種
	二代 澤田 昭邨	平形急須三点（朱泥・藻掛窯変・茶泥）
	柴田 正明	Time
	清水 北條	白泥土藻掛急須／白泥土藻掛急須
	杉江 幸治	灰釉刷毛目皿
	竹内 孝一郎	灰釉大皿
	谷川 省三	白氷裂釉組鉢
	谷川 仁	灰釉陶硯
	都築 青峰	急須 鳥獣戯画彫り
	富本 敏裕	花入れ
	水上 勝夫	木・水・人・土・火・ I
	水野 真澄	波動
	村越 風月	茶注三趣
	四代 山田 常山	花入
	山田 想	青茶碗
	山田 孝藏	生命の器
	山本 宣光	織部手桶花入
	山本 淳平	Wonderful world-草原の集い-／遊覧飛行
人 形	小林 佳子	長閑
	佐野 景子	単風
ガラス工芸	平岡 和広	スタンドグラス金箔屏風「鳳凰 洋上に舞う」
染 織	小林 佐智子	風通織木綿着物「野に遊ぶ」
	杉浦 雅子	紬織着物「かごめ」
	二宮 祐子	華

企画展「写真で見る半田の自然災害史」

期 間：令和3年6月26日(土)～9月5日(日)

会 場：特別展示室（2階）、展示コーナー（1階）

入場者数：17,494人

展示内容：これまで半田を襲った巨大地震や台風等による
主な自然災害について、当時の記録写真や
関係資料を中心に紹介した。

展示点数：186点



1. 写真資料(※すべて半田市立博物館蔵)

	名 称		名 称		名 称		名 称
1	山方新田・源兵衛橋方面を望む(源平町)	26	武豊線流失状況(成岩地区)	51	遺体の捜索・運搬(日ノ出町1丁目地内)	76	ユニー半田ショッピングセンター前
2	山方新田(源平町)	27	武豊線流失状況(有脇地区)	52	行方不明者の捜索(旧山方町3丁目地内)	77	銀座本町周辺
3	山方新田(源平町)	28	半田競艇場の建物倒壊	53	瓦礫を片付ける自衛隊員(東洋町2丁目地内)	78	月見橋下流
4	山方新田・平久商店附近(源平町)	29	昭和橋大破(成岩地区)	54	ミュージックホール前 半劇通り(新栄町地内)	79	矢勝川決壊箇所
5	山方新田・元東洋紡績西附近(東洋町)	30	半田港付近の応急堤	55	武豊線流出状況(港町3丁目地内)	80	住吉町4丁目
6	稲葉酒造倉(亀崎字越前)	31	応急作業状況	56	死体確認現在調	81	住吉町4丁目
7	稲葉酒造附近(亀崎字越前)	32	源平町地内の被害状況(東洋町地内より望む)	57	海潮院前の被害状況(亀崎町1丁目地内)	82	避難者の救出(住吉町)
8	馬場西新田・織布工場(有楽町)	33	伊勢湾台風被害(パノラマ写真)	58	海蔵寺山門の倒壊(乙川若宮町地内)	83	避難者の救出(住吉町)
9	西馬場成光橋南工場(有楽町)	34	江川橋流失状況(後方は輸送機工業株式会社)	59	伝染病予防の消毒	84	神戸川の氾濫
10	山方新田・中笠酢店本倉(源平町)	35	山方神社付近(旧山方町地内)	60	建築資材・主食配給量に関するお知らせ	85	国道247号線(古浜町)
11	望洲楼百畳の間(亀崎町3丁目)	36	座礁した第六天社丸(旧康衛町2丁目地内)	61	治安維持のためのポスター	86	南末広町交差点付近
12	海蔵寺(乙川若宮町)	37	紡績工場土宅(旧山方町地内)	62	避難所の様子	87	乙川一色町地内
13	業業神社境内(東本町)	38	講堂屋根(半田中学校)	63	1か月以上続けられた炊き出し	88	乙川吉野町交差点付近
14	殉難学徒の碑(雁宿公園内)	39	昭和23年度建築校舎の屋根(成岩中学校)	64	特設火葬場でダビに付す	89	乙川吉野町交差点付近
15	追憶の碑(雁宿公園内)	40	二舎新校舎(亀崎小学校)	65	伊勢湾台風半田市犠牲者合同葬儀	90	国道247号線(宮路町)
16	艦上偵察機「彩雲」	41	中校舎と倒壊したトイレ(乙川小学校分校)	66	神戸川上流	91	市役所西交差点付近
17	養野地内浸水状況	42	六番公園(瑞穂町)(地面からの高さ約280cm)	67	神戸川の氾濫	92	成岩本町1丁目交差点付近
18	神戸川下新開堤防決壊	43	JR半田駅 ガード東(地面からの高さ約120cm)	68	市内浸水の様子	93	柵町交差点
19	神戸川下新開地内決壊	44	神前神社 防火水槽横(地面からの高さ約120cm)	69	天動橋を下流より望む	94	清城町親池
20	新浜堤防欠損浸水状況	45	協和保育園 北側(地面からの高さ約130cm)	70	豪雨による橋の崩落	95	新居町7丁目
21	新浜地内浸水状況	46	半田市役所 西側花壇内(地面からの高さ約190cm)	71	復旧作業(土のう作り)	96	半田・常滑線(県道34号)
22	稗田川堤防決壊	47	保健センター 南花壇(地面からの高さ約180cm)	72	国道247号線バイパス	97	半田運河(ナヶ川)
23	新田堤防決壊口	48	台風下浸水中の火事	73	国道247号線バイパス	98	平地4丁目平地川付近
24	東成岩駅構内の脱線列車	49	家屋の被害状況(東洋町3丁目地内)	74	南末広町交差点	99	大池町2丁目地内の水路
25	武豊線流失状況(東成岩駅北)	50	源平町地内の被害状況	75	名鉄駅構内	100	岩滑南浜町地内
						101	岩滑南浜町地内

2. その他一般資料(※33,34以外は、すべて半田市立博物館蔵)

	名 称		名 称		名 称		名 称
1	知多新聞(大正7年10月26日)	20	知多新聞(昭和9年9月29日)	39	半田市全図 滞水地域図	58	災害復旧陳情書
2	知多新聞(大正7年10月29日)	21	半田製作所全体計画図(昭和19年8月)	40	堤防決壊箇所・浸水地域図	59	伊勢湾台風による応急対策と措置 半田市
3	知多新聞(大正7年10月31日)	22	中島飛行機(株)半田製作所 印鑑箱	41	伊勢湾台風関係書類(消防本部)	60	伊勢湾台風による災害の概要並びに要望書 愛知県
4	知多新聞(大正7年11月16日)	23	中島飛行機(株)半田製作所 勤怠簿表紙	42	伊勢湾台風災害関係書類(総務課長)	61	治安維持のためのお知らせ(原稿)
5	知多新聞(大正7年11月23日)	24	中島飛行機(株)半田製作所 封筒	43	伊勢湾台風災害関係書類	62	災害地の衛生について 愛知県衛生部 保健所
6	知多新聞(大正9年2月14日)	25	中島飛行機(株)半田製作所 表彰状	44	救援物資種目別配分表	63	第15号台風 災害による死亡者名簿
7	知多新聞(大正9年2月20日)	26	中島飛行機(株)半田製作所 レコード(社歌)	45	救援物資地区別配分表	64	伊勢湾台風犠牲者合同葬 遺族名簿
8	知多新聞(明治40年8月17日)	27	中島飛行機(株)半田製作所 防諜(昭和18年6月)	46	罹災証明書	65	たいふう 1959 半田市立半田小学校
9	知多新聞(大正12年9月6日)	28	中島飛行機(株)半田製作所 社員章	47	伊勢湾台風被害状況調 昭和34年10月30日現在	66	広報あいち 第96号(昭和34年9月30日)
10	知多新聞(大正12年9月7日)	29	中島飛行機(株)半田製作所 トレーシングペーパー	48	台風15号に因る被害者に対する市税の減免について	67	広報あいち 第97号(昭和34年10月5日)
11	知多新聞(大正12年9月8日)	30	艦上偵察機「彩雲」主車輪	49	半田市報号外 第1号(昭和34年10月3日)	68	Aサヒグラフ 昭和34年10月号
12	知多新聞(大正12年9月9日)	31	昭和19年12月7日二於ケル地震ニ依ル被害写真	50	半田市報号外 第2号(昭和34年10月6日)	69	伊勢湾台風被害状況写真綴
13	大震災写真画報 (大阪朝日新聞社発行)	32	第一面 昭和19年12月7日二於ケル大地震被害状況	51	半田市報号外 第3号(昭和34年10月10日)	70	伊勢湾台風被害状況写真綴
14	大震災写真画報 第二輯(大阪朝日新聞社発行)	33	おほなる観音(十一面観音) ※光熙院蔵	52	半田市報号外 第5号(昭和34年10月20日)	71	伊勢湾台風被害状況写真綴
15	大震災写真画報 第三輯(大阪朝日新聞社発行)	34	深清断層剥ぎ取り試料 ※幸田町教育委員会蔵	53	半田市報 第232号(昭和34年11月25日)	72	伊勢湾台風新聞スクラップ帳
16	知多新聞(昭和9年9月22日)	35	台風13号愛知県被害要図	54	台風15号による罹災児童に対する学用品等の調査について	73	伊勢湾台風による教育施設の被害状況(綴)
17	知多新聞(昭和9年9月23日)	36	第13号台風(高潮)被害調査報告書及一覧表綴	55	半田市伊勢湾台風漂流物処理隊要綱	74	伊勢湾台風浸水位表示看板
18	知多新聞(昭和9年9月26日)	37	台風13号被害現場写真綴	56	伊勢湾台風 災害見舞状受付簿		
19	知多新聞(昭和9年9月28日)	38	愛知県全圖 伊勢湾台風被害概要図	57	陳情書(半田市教員組合)		

3. 古文書資料(※すべて半田市立博物館蔵)

	名 称	分 類
1	震害取調書	酒造会館文書
2	震害當時未納酒税納付傳票 其一	酒造会館文書
3	震害ニ係ル未納酒税納付傳票 其二	酒造会館文書
4	震災写真 愛知縣之部	-
5	海岸堤防修繕願	榊原伊助家文書
6	知多郡乙川村塩浜校地帳	乙川文書
7	卯年三郷入鹿(費)帳 西成岩分扣	西成岩文書
8	乍恐奉願上候御事(松持分東大宮村地先高成新田儀云々)	榊原伊助家文書
9	八月廿日大雨高汐満ち海辺堤切所汐留人足諸色人用書上	乙川文書追加2
10	亥八月廿日大風雨高汐満ち海辺堤切所破損所間数改帳	乙川文書追加2
11	知多郡乙川村御普請所堤井川江浸書上絵図面下	乙川文書追加3

館蔵品展「山本梅荘 没後 100 年展」

期 間：令和 3 年 9 月 18 日（土）～

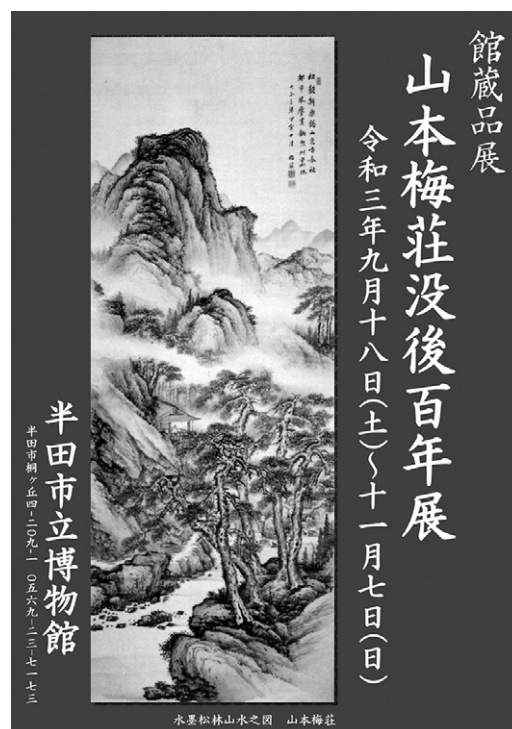
令和 3 年 11 月 7 日（日）

会 場：特別展示室（2 階）、展示コーナー（1 階）

入場者数：10,811 人

展示内容：半田が生んだ著名な南宋画家、山本梅荘の
没後 100 年を記念して、梅荘一門の作品や
遺品などを展示した。

展示点数：121 点



No.	作品名	作者名
22	春	山本梅莊
21	青緑寒林訪友之図	山本梅莊
20	青緑夏景山水	山本梅莊
19	水墨重疊瀑布之図	山本梅莊
18	青緑金點柳桃漁村之図	山本梅莊
17	青緑柳林深春之図	山本梅莊
16	淡彩雪景山水	山本梅莊
15	青緑秋景山水	山本梅莊
14	模高南阜羅漢像	山本梅莊
13	水墨松林山水之図	山本梅莊
12	奇石砵兀山靈鐘之図	山本梅莊
11	淡彩春溪探梅之図	山本梅莊
10	水墨秋景山水	山本梅莊
9	水亭開鵬之図	山本梅莊
8	仲春の月	山本梅莊
7	淡彩秋景山水	山本梅莊
6	水墨山水積雨新霽図	山本梅莊
5	晴巒凝翠	山本梅莊
4	溪窓寒話	山本梅莊
3	水墨松林夏景山水	山本梅莊
2	青緑蘭亭修禊之図	山本梅莊
1	淡彩清溪尋友	山本梅莊

No.	作品名	作者名
44	鴻雪図誌	山本梅莊
43	岩豆名画冊	山本梅莊
42	八大山人花卉十二図	山本梅莊
41	園林涉趣（三）	山本梅莊
40	園林涉趣（二）	山本梅莊
39	園林涉趣（一）	山本梅莊
38	探幽模観音帖	山本梅莊
37	四時美園	山本梅莊
36	煙霞淡泊	山本梅莊
35	紙本扇面画帖	山本梅莊
34	花卉畫帖	山本梅莊
33	水墨名画冊	山本梅莊
32	寄合画帖（地）	山本梅莊
31	寄合画帖（天）	山本梅莊
30	山水帖妙品	山本梅莊
29	水墨山水冊	山本梅莊
28	明清名画々控帖（四）	山本梅莊
27	明清名画々控帖（三）	山本梅莊
26	明清名画々控帖（二）	山本梅莊
25	明清名画々控帖（一）	山本梅莊
24	扇面名画冊	山本梅莊
23	夏	山本梅莊

No.	作品名	作者名
65	書簡	山本梅莊
64	四方盆（二点）	山本梅莊
63	茶道具入	山本梅莊
62	夜寒焼香合（三点）	山本梅莊
61	漁樵對話茗碗（六点）	山本梅莊
60	岩ノ絵茗碗（六点）	山本梅莊
59	枯本竹名急須	山本梅莊
58	九谷焼雲根図鉢	山本梅莊
57	五福天来筆洗	山本梅莊
56	茶壺	山本梅莊
55	松絵茶碗	山本梅莊
54	雲根急須	山本梅莊
53	夜寒焼染付山水図鉢	山本梅莊
52	染付鉢	山本梅莊
51	茶心壺	山本梅莊
50	巖上松茶碗	山本梅莊
49	松上鶴茶碗	山本梅莊
48	扇子	山本梅莊
48	扇子	山本梅莊
47	短冊（九点）	山本梅莊
46	小墨	山本梅莊
45	袖中山嶽小品	山本梅莊

No.	作品名	作者名
86	六曲屏風	野倉鐵真
85	不老長寿茶碗	山本耕坪
84	半田八景帙	山本香雲
83	扇子	山本香雲
82	盆	山本石莊
81	犬山焼茶碗	山本石莊
80	犬山焼水指	山本石莊
79	茶道具入れ	山本石莊
78	絵付茶碗（二点）	山本石莊
77	色紙貼込画帖	山本香雲
77	色紙貼込画帖	山本石莊
76	半田八景	山本石莊
75	雪溪吟客図	稻垣錦莊
74	淡彩雪景山水	山本耕坪
73	淡彩秋景山水	山本香雲
72	青緑山水	山本石莊
71	落款印・印影	山本梅莊
70	数珠	山本梅莊
69	印籠	山本梅莊
68	煙草入れ（二点）	山本梅莊
67	筆筒	山本梅莊
66	明筆（十一点）	山本梅莊

「第 36 回半田市立博物館 友の会合同展」

期 間：令和 3 年 12 月 4 日（土）～

令和 3 年 12 月 12 日（日）

会 場：特別展示室（2 階）、展示コーナー（1 階）

入場者数：2,172 人

展示内容：博物館友の会各部員の会員による作品を
展示した。

展示点数：109 点



展示資料一覧

部会名	主な作品	点 数
染色部会	タペストリー・エコバッグ・ブラウス・袋・スカーフ・ショール・スカート・エプロン・テーブルセンター・チュニック など	49 点
はたおり部会	織り布・スヌード・バッグ・かつぼう着・ベスト・クッション・財布・タペストリー・スカーフ・小物入れ・のれん など	23 点
古文書部会	平家物語絵巻（明星大学蔵）巻一 2 頁 ～ 7 頁 御定書 上巻（国会国立図書館蔵） 7 頁 ～ 12 頁	2 点
陶芸部会	鉢・香炉・花器・皿・茶碗・スープカップ・土器 など	15 点
歴史部会	令和 3 年度現地研修および室内研修資料	1 点
拓本部会	松尾芭蕉句碑・鸞替之灯拓・相田みつを詞碑・般若心経 経文・立体拓・七福神画拓・石鼓文 石版拓・石版画・山岡荘八句碑・立体色彩拓・万葉集 高市黒人歌碑・西條八十 墓誌銘詩碑・良寛 扇面歌碑 など	19 点



館蔵品展「古文書に見る江戸時代の庄屋の仕事」

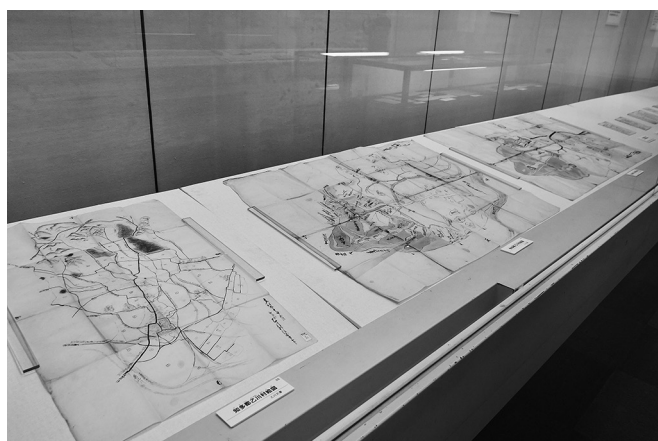
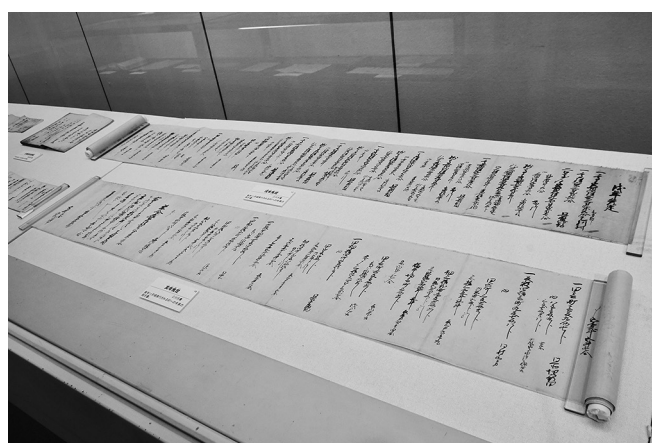
期 間：令和4年2月26日（土）～4月10日（日）

会 場：特別展示室（2階）、展示コーナー（1階）

入場者数：8,509人

展示内容：博物館で収蔵している貴重な古文書資料を展示し、
当地方の江戸時代の庄屋（村役人）の仕事内容
について紹介した。

展示点数：70点



展示資料一覧

	分 類	名 称	種 類
1	御触状	天保十二年西成岩控御触状写巻	西成岩文書
2		御触状留帳（禁門の変）	西成岩文書
3	諸願達	分米一件	西成岩文書
4		諸願達留帳	西成岩文書
5		乍恐奉願上候事（起方相成所見立願）	榊原伊三家文書
6		御林山之内起方申付書	岩滑文書
7		乍恐奉願上候事（検見願）	乙川文書
8		天王浅間両社貢替願済	乙川文書
9		奉願候御事（観音堂本尊開帳）	乙川文書
10		拝借仕御金之事	乙川文書
11		覚（飯森新居入組）	乙川文書
12		知多郡乙川村医師社人修験書上帳	乙川文書
13	年 貢	戌年免定	乙川文書
14		亥年免状	乙川文書
15		古新田名寄帳	西成岩文書
16		西歳免割帳	西成岩文書
17		御年貢米納庭帳	西成岩文書
18		入用割賦高寄帳	乙川文書
19	小物成	御役銀勘定覚帳	西成岩文書
20		申年御役銀割賦帳	西成岩文書
21		夫銀	乙川文書
22		堤銀	乙川文書
23		伝馬銀	乙川文書
24		綿布役銀	乙川文書
25		塩浜年貢	乙川文書
26		役竹銀	乙川文書
27		覚（薪肥物問屋運上金受取）	乙川文書
28		知多郡成岩村下用書上帳	成岩文書
29	下 用	辰年三郷下用帳 西成岩分	西成岩文書
30	普 請	洪水大風雨二付御普請扣帳	西成岩文書
31		覚（西成岩分柳原御役所）	西成岩文書
32		当秋不時御普請所御人足代他受取	乙川文書
33		安永五申定式御普請所御配符	乙川文書
34		杓作方手傳日用代受取	乙川文書
35		乙川村塩浜普請配符	乙川文書
36	宗門改	宗門改帳	乙川文書
37		卯年増減改帳	西成岩文書
38		村送一礼之事	西成岩文書
39		宗門送一礼之事	西成岩文書
40		出稼往来一礼之事	西成岩文書
41	掟（定）	尾州知多郡乙川村宗門改帳の一部に記載された掟	乙川文書
42		若連中掟人別帳	乙川文書
43		知多郡乙川村博奕御法度連判帳	乙川文書
44	お救い金	御地頭大風御手当被下置候分割賦帳	乙川文書
45		御救米書付	岩滑文書
46		御救金下ケ渡書付	岩滑文書
47	調達金	調達名前書上帳	西成岩文書
48		知多郡両浦五万調達四銭懸割合帳	西成岩文書
49		御地頭所壺万八千両拾ケ年済割賦金御達書下帳	西成岩文書
50		借用申金子之事	西成岩文書
51		證書	西成岩文書
52		柳原五ヶ年調達割符帳	西成岩文書
53		調達金利足返還割賦帳	乙川文書
54		調達金書付（明細）	岩滑文書
55	村の犯罪とさばき	判決書	乙川文書
56		判決書	乙川文書
57	徴 用	渡辺半蔵殿為巡視二付勘定ノ上帳	西成岩文書
58		異国船渡来之節御用人足	西成岩文書
59		大阪ヨリ藝州行人足勘定帳	西成岩文書
60		千賀與八郎様初御泊用帳	西成岩文書
61	寺 社	奉願上候御事（八幡宮本社普請願）	乙川文書
62		乍恐奉願上候御事（松木伐採願）	乙川文書
63		奉願上候御事（後住願）	乙川文書
64		奉願上候御事（神社松木伐採願）	乙川文書
65		乍恐奉願上候御事（受領官他請申件申請）	乙川文書
66	絵 図	知多郡乙川村御山絵図	乙川文書
67		知多郡乙川村絵図	乙川文書
68		知多郡乙川村絵図	乙川文書
69		家並図（向山三枚之内）	乙川文書
70		海辺村絵図	乙川文書

(2) その他の展示

タイトル	期 間	観覧者数	備 考
原爆と人間展	7月16日(金)～ 8月31日(火)	11,500 人	主催：半田市（担当：総務課） 会場：1階 通路壁面
愛知やきものヒストリー2021	7月17日(土)～ 9月5日(日)	12,668 人	会場：1階 受付前
高齢介護課パネル展	9月2日(木)～ 9月14日(火)	2,411 人	主催：半田市（高齢介護課） 会場：2階 通路壁面
かぼちゃのおもさ当てクイズ	10月1日(金)～ 10月31日(日)	7,453 人	会場：1階 受付前
半田市・徐州市児童書画作品展	11月13日(土)～ 11月28日(日)	3,302 人	主催：半田市（担当：秘書課） 会場：2階 特別展示室
新美南吉読書感想画コンクール受賞作品展	12月5日(日)～ 12月26日(日)	4,061 人	主催：半田市立図書館 会場：2階 通路壁面
新春干支展	12月18日(土)～ 4年1月6日(木)	2,152 人	会場：1階 展示コーナー
第45回 友画会日本画・水墨画展	1月8日(土)～ 1月10日(月祝)	1,908 人	主催：友画会 会場：1階 展示コーナー 2階 特別展示室
第50回 半田さわやか教育展	1月13日(木)～ 1月25日(火) 午前	4,247 人	主催：半田市教育委員会 会場：1階 展示コーナー 2階 特別展示室
半田市小中学校書写展	1月26日(水)～ 2月3日(木)午前	3,262 人	主催：半田市教育委員会 会場：1階 展示コーナー 2階 特別展示室
第37回 半田市中学校美術部展	2月4日(金)～ 2月9日(水)午前	1,244 人	主催：半田市教育委員会 会場：1階 展示コーナー 2階 特別展示室
第37回半田市造形教育展	2月10日(木)～ 2月22日(火)午前	4,686 人	主催：半田市教育委員会 会場：1階 展示コーナー 2階 特別展示室
ミニ展示「ひなまつり展」	2月5日(土)～ 3月6日(日)	8,202 人	会場：1階 受付前

(3) 山車展示

区 分	搬 入	組上げ	搬 出
乙川南山八幡車	令和 3 年 3 月 28 日(日)	令和 3 年 4 月 4 日(日)	令和 3 年 6 月 27 日(日)
亀崎石橋組青龍車	令和 3 年 6 月 27 日(日)	令和 3 年 7 月 4 日(日)	令和 3 年 10 月 17 日(日)
板山小板組旭車	令和 3 年 10 月 17 日(日)	令和 3 年 10 月 24 日(日)	令和 4 年 3 月 20 日(日)

5. 教育普及活動

(1) 博物館講座・講演会等

タイトル	日 程	講 師	人 数
勾玉をつくろう	7 月 24 日 (土)	博物館学芸員	6 組 13 人
化石を発掘しよう! ~木の葉化石編~	7 月 25 日 (日)	博物館学芸員	11 組 26 人
天然石できれいな万華鏡を作ろう	8 月 1 日 (日)	博物館学芸員	12 組 27 人
夜の図書館・博物館で怖〜い話を聞く会	8 月 6 日 (金)	図書館・博物館共催	28 人
かんたん実験で地震について学ぼう	8 月 8 日 (日)	博物館学芸員	11 組 26 人
文化財よもやま話(全 8 回)	8 月~9 月	文化財専門委員	157 人
てんごく講座	11 月 21 日 (日)	田中 修文 氏	10 人
クリスマスリースづくり	11 月 27 日 (土)	寺西 愛弓 氏	8 人
華のしめ飾りづくり	12 月 25 日 (土)	近藤 水名子 氏	14 人
古文書講座 (山車関係者向け)	12 月 25 日 (土)	博物館専門員	24 人
古文書講座	令和 4 年 1 月 22 日 (土)	博物館専門員	23 人

(2) 視察及び見学

月 日	時 間	団体名等	人 数	場 所	解説
4 月 23 日 (金)	14:00～15:00	めだかの会	19 人	博物館	○
10 月 6 日 (水)	11:00～12:00	東海市立渡内小学校	90 人	博物館	
10 月 13 日(水)	10:00～11:00	クラブツーリズム	13 人	旧中埜家住宅	○
3 月 25 日 (金)	10:00～11:00	株式会社魚津社寺工務店	1 人	旧中埜家住宅	○

(3) 半田市内小学校 3 年生の見学学習

小学校 3 年生を対象として、半田市の様子を紹介した番組の上映、展示室見学と昔の生活道具の学習を行っている。令和 3 年度は下記のとおり実施した。

月 日	学 校 名	クラス数	人 数	月 日	学 校 名	クラス数	人 数
1 月 12 日	雁宿小学校	3	83 人	1 月 26 日	横川小学校	3	98 人
1 月 14 日	亀崎小学校	3	94 人	1 月 28 日	有脇小学校	1	30 人
1 月 18 日	半田小学校	2	65 人	2 月 1 日	さくら小学校	2	56 人
1 月 19 日	花園小学校	4	119 人	2 月 2 日	宮池小学校	4	131 人
1 月 21 日	岩滑小学校	3	79 人	2 月 15 日	乙川東小学校	3	94 人
1 月 25 日	板山小学校	1	35 人	3 月 9 日	乙川小学校	3	82 人
合 計					12 校	32 クラス	966 人

6. 資料の収集・整理・保存

(1) 刊行物の寄贈

令和 3 年度は全国の博物館施設・公官庁・大学・研究機関など、あわせて 118 の機関から 258 点の文献を寄贈いただきました。ここに記してお礼申し上げます。(順不同)

【北海道】北海道立北方民族博物館／【岩手県】花巻市博物館／【茨城県】上高津貝塚ふるさと歴史の広場／土浦市立博物館／【埼玉県】川越氷川祭の山車行事保存会／【千葉県】国立歴史民俗博物館／市立市川歴史博物館／野田市郷土博物館／野田市市史編纂／木更津市郷土博物館金のすず／【東京都】昭和館／世田谷区立郷土資料館／世田谷区政策経営部政策企画課区史編さん／東京都江戸東京博物館／たばこと塩の博物館／（公財）日本文化財保護協会／（独）日本芸術文化振興会【神奈川県】馬の博物館／平塚市博物館／横須賀市自然・人文博物館／横浜市歴史博物館／川崎市市民ミュージアム／【富山県】氷見市立博物館／射水市新湊博物館／【福井県】福井県陶芸館／福井県立こども歴史文化館／【長野県】飯田市美術博物館／諏訪市教育委員会／【岐阜県】各務原市歴史民俗資料館／岐阜市歴史博物館／瑞浪市陶磁資料館／美濃加茂市民ミュージアム／【静岡県】島田市博物館／沼津市歴史民俗資料館／浜松市博物館／浜松市地域遺産センター／磐田市教育委員会／駿

府博物館／【愛知県】愛知学院大学／愛知県陶磁美術館／愛知県埋蔵文化財調査センター／熱田神宮宝物館／荒木集成館／安城市歴史博物館／大口町歴史民俗資料館／大府市歴史民俗資料館／岡崎市美術博物館／春日井市道風記念館／蟹江町歴史民俗資料館／清須市はるひ美術館／江南市歴史民俗資料館／新城市鳳来寺山自然科学博物館／瀬戸蔵ミュージアム／田原市博物館／中部大学民俗資料博物館／知立市歴史民俗資料館／とこなめ陶の森資料館／豊川市桜ヶ丘ミュージアム／豊田市郷土資料館／トヨタ博物館／豊橋市自然史博物館／豊橋市美術博物館／豊橋市二川宿本陣資料館／名古屋市博物館／名古屋市秀吉清正記念館／（一財）名古屋城振興協会／南山大学人類学博物館／西尾市岩瀬文庫／碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館／碧南市藤井達吉現代美術館／みよし市立歴史民俗資料館／愛知大学総合郷土研究所／高浜市／愛知県／西尾市教育委員会／稲沢市教育委員会／名古屋市教育委員会／東海市教育委員会／豊川市教育委員会／中京大学文学部／豊橋市文化財センター／豊田市教育委員会／清須市教育委員会／愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会／春日井市教育委員会／安城市埋蔵文化財センター／刈谷市／日本福祉大学知多半島総合研究所／刈谷市歴史博物館／知多市史編さん委員会／愛知県立芸術大学文化財保存研究所／愛知大学豊橋教務課／あいち朝日遺跡ミュージアム／名古屋大学人文学研究科考古学研究室【三重県】亀山市歴史博物館／斎宮歴史博物館／藤原岳自然科学館／【滋賀県】高島歴史民俗資料館／滋賀県立大学／（公財）長浜曳山文化協会／楽浪文化財修理所／【京都府】京都市考古資料館／立命館大学国際平和ミュージアム／【大阪府】大阪歴史博物館／吹田市立博物館／【兵庫県】明石市立文化博物館／赤穂市立田淵記念館／西宮市立郷土資料館／【奈良県】奈良文化財研究所・飛鳥資料館／【山口県】山口県立山口博物館／【徳島県】徳島市立徳島城博物館／【香川県】香川県立ミュージアム／（公財）松平公益会／【愛媛県】宇和島市教育委員会／【高知県】高知県立美術館／【福岡県】九州産業大学美術館【熊本県】熊本市立熊本博物館

（２）資料寄贈

ア 美術品

受入日	種類	作品名	作 者	点 数
令和３年５月１８日	絵画	六曲一双屏風	山岡寅之助夢鴟	１点
７月１５日	絵画	Cantabile	麻生貴美子	１点
９月２日	工芸品	茶道具入れ	山本梅莊	１点
１２月１１日	掛軸	淡青緑松林山水絹本方幅 ほか	山本梅莊	４点
１２月１１日	絵画	額（梅・雀）	山本梅莊	１点
１２月１１日	工芸品	盆（瓢箪）ほか	山本石叟	２点
１２月１５日	工芸品	桐塑人形	新美記代子	３７点
１２月１５日	掛軸	淡彩溪山幽居之図絹本 ほか	山本梅莊 ほか	１６点
１２月１５日	陶芸	絵付茶碗 ほか		１７点

12月15日	彫刻	観音像 ほか	新美常次郎 ほか	14点
12月15日	絵画	色紙 ほか	山本石叟 ほか	12点
12月15日	書	色紙 ほか		6点
12月15日	工芸品	織部香炉 ほか		3点
令和4年2月3日	版画	白樺林（木版画）	藤田不美夫	1点

イ 一般資料

受入日	資料名	点 数
令和3年4月13日	戦争関係資料（軍帽ほか）、写真	32点
5月18日	日本筆記史談	1点
7月9日	土瓶	2点
7月20日	中島飛行機半田製作所製図用机、コンパス、職務経歴書	3点
9月15日	證書、知多日報	2点
9月19日	おちよこ、研ぎ石	2点
10月22日	電鍵（モールス信号送信機）	1点
11月5日	軍服ほか	5点
11月19日	機織り機	1点
12月15日	手紙、記念品、書籍ほか	51点
12月21日	化石標本	58点
令和4年2月2日	山本梅荘・石荘宛の絵葉書	204点
3月24日	旧中埜半六郎関係資料（番傘、大日本交通全図ほか）	6点
3月26日	中島飛行機半田製作所関係資料（写真、楽譜、手紙）	5点

（3）収蔵資料点数（令和4年3月31日時点）

区 分	数 量	区 分	数 量
生 活	6,661点	自 然	165点
産 業	4,935点	古文書	4,790点
民 俗	1,412点	美術品	1,527点
考 古	207点	歴 史	1,510点
合 計		21,207点	

7. 半田市立博物館友の会活動

半田市郷土資料館友の会（昭和 53 年設立）を前身として、昭和 59 年に設立された。半田市立博物館の活動に協力し、あわせて郷土の文化遺産を守り歴史・民俗・自然に関する知識を深め、会員相互の親睦をはかることを目的としている。その後、任意団体として独立しつつも、博物館事業への積極的な協力を目的の一つに掲げ、現在は、古文書、拓本、陶芸、はたおり、歴史、染色の 6 部会が活動している。

令和 3 年度実績

部会名	会員数	活動日数	部会名	会員数	活動日数
古文書部会	15 人	24 日	はたおり部会	25 人	41 日
拓本部会	9 人	11 日	歴史部会	30 人	11 日
陶芸部会	5 人	22 日	染色部会	23 人	53 日

8. 文化財保護事業

（１）文化財専門委員会

①設置目的

市内における文化財の調査及び保護活用に関して研究し、教育委員会の諮問に応じて意見を具申し、又は建議する。

②委員の構成（10 名）

学識経験者の中から教育委員会が委嘱する。委員の任期は 3 年。毎年、委員長 1 名、副委員長 1 名を選出し、委員長は委員会を代表し会議の議長となる。

（２）文化財の保護

①指定文化財の数（令和 4 年 3 月 31 日現在）

種 類			国指定	県指定	市指定	計
有形文化財	建造物		1	0	6	7
	美術工芸品	絵 画	3	0	3	6
		彫 刻	1	0	10	11
		工芸品	3	0	4	7
		書跡・典籍・古文書	1	0	9	10
民俗文化財	有 形		1	1	6	8
	無 形		1	2	6	9
記念物	史 跡		0	1	2	3
	天然記念物	植 物	0	1	3	4
計			11	5	49	65

②指定文化財一覧

	種 別	名 称	員 数	指定年月日	所在地	所有者又は管理者
国指定	建造物	旧中埜家住宅	1 棟	昭和 51.2.3	天王町 1-30-2	半田市
	彫刻	木造阿弥陀如来立像	1 躯	昭和 6.12.14	東郷町 2-41	常楽寺
	有形民俗	半田の酢醸造用具	323 点	平成 28.3.2	桐ヶ丘 4-209-1	半田市
	無形民俗	亀崎潮干祭の山車行事	—	平成 18.3.15	亀崎町 2-92-1	亀崎潮干祭保存会
県指定	有形民俗	亀崎潮干祭の山車	5 輛	昭和 41.1.17	亀崎町 2-92-1	亀崎潮干祭保存会
	無形民俗	大獅子小獅子の舞	—	昭和 42.10.30	成岩本町 4-5	成岩第四区獅子保存会
	無形民俗	板山獅子舞	—	平成 9.10.17	神代町 1-61	板山獅子保存会
	史跡	大高山古窯	297 m	昭和 33.6.21	上池町 2-31	半田市
	天然記念物	摂取院のイブキ	1 樹	昭和 56.2.23	前崎東町 44	摂取院
市指定	建造物	乙川八幡社本殿	1 棟	昭和 58.4.1	乙川殿町 97	八幡社
	建造物	秋葉社本殿	1 棟	昭和 58.4.1	亀崎町 4-80	秋葉社
	建造物	旧新美家住宅(新美南吉養家)	1 軒	昭和 62.10.30	平和町 7-60	公益財団法人かみや美術館
	建造物	雲観寺鐘楼	1 棟	平成 23.11.1	中村町 1-41	雲観寺
	建造物	一切経蔵、八角輪蔵	1 棟	平成 23.11.1	中村町 1-41	雲観寺
	建造物	半田ハリストス正教会「聖イオアン・ダマスキン聖堂」	1 棟	令和元.6.21	乙川西ノ宮町 3-33	半田ハリストス正教会
	絵画	血誓の阿弥陀如来絵像	2 幅	昭和 41.3.31	亀崎町 3-51	浄願寺
	絵画	絹本着色方便法身尊像	1 幅	平成 23.11.1	中村町 1-41	雲観寺
	絵画	半田ハリストス正教会の聖障(イコノスタス)	27 枚	令和元.6.21	乙川西ノ宮町 3-33	半田ハリストス正教会
	彫刻	薬師如来座像	1 躯	昭和 41.3.31	東郷町 2-86	西薬師教会
	彫刻	十一面観世音菩薩立像	1 躯	昭和 41.3.31	有楽町 2-34	鳳出観音教会
	彫刻	多聞天立像	1 躯	昭和 48.4.12	有楽町 2-34	鳳出観音教会
	彫刻	地藏菩薩立像	1 躯	昭和 48.4.12	有楽町 2-34	鳳出観音教会
	彫刻	聖観世音菩薩立像	1 躯	昭和 48.4.12	東郷町 2-86	西薬師教会
	彫刻	大日如来座像	1 躯	昭和 48.4.12	東郷町 2-86	西薬師教会
	彫刻	聖観世音菩薩立像	1 躯	昭和 58.7.1	東本町 2-16	光照院
	彫刻	阿弥陀如来立像	1 躯	昭和 60.8.1	堀崎町 1-58	順正寺
	彫刻	木造薬師如来座像	1 躯	昭和 61.2.1	成岩本町 2-5	北薬師教会
	彫刻	木造聖徳太子立像(南無仏二歳像)	1 躯	平成 23.11.1	中村町 1-41	雲観寺
	工芸	陶製水瓶	1 個	昭和 41.3.31	—	個人
	工芸	三筋壺	2 個	昭和 44.5.22	桐ヶ丘 4-209-1	半田市
	工芸	巴文大甕	1 個	昭和 54.4.1	—	個人
	工芸	懸盤	1 脚	平成 23.11.1	中村町 1-41	雲観寺
	古文書	乙川文書	935 点	昭和 53.4.1	桐ヶ丘 4-209-1	半田市
	古文書	西成岩文書	516 点	昭和 53.4.1	桐ヶ丘 4-209-1	半田市
	古文書	乙川八幡社祭礼絵図	1 巻	昭和 58.4.1	乙川殿町 97	八幡社

市指定	古文書	絵像阿弥陀如来(大品)裏書	1 巻	昭和 60.8.1	堀崎町 1-58	順正寺
	典籍	乙川八幡社社地絵図面	1 巻	昭和 58.4.1	乙川殿町 97	八幡社
	典籍	黄檗鉄眼版一切経	276 帙 2104 冊	平成 23.11.1	中村町 1-41	雲舘寺
	書跡	六字名号	1 幅	平成 23.11.1	中村町 1-41	雲舘寺
	書跡	九字名号	1 幅	平成 23.11.1	中村町 1-41	雲舘寺
	書跡	御文	1 巻	平成 23.11.1	中村町 1-41	雲舘寺
	有形民俗	向山神楽獅子の館	1 台	昭和 45.11.10	向山町 2-30	向山神楽獅子保存会
	有形民俗	半田山車まつり 市内 9 地区の山車	26 輛	昭和 54.5.4	市内 26 ヶ所山車蔵	半田山車祭り保存会
	有形民俗	乙川八幡社絵馬群	9 面	昭和 58.4.1	乙川殿町 97	八幡社
	有形民俗	中村組神輿	1 基	平成 15.4.1	東本町 2-23	業葉神社
	有形民俗	平地神明社の算額	1 面	平成 28.7.8	平地町 1-72	平地神明社奉賛会
	有形民俗	業葉神社の古面	1 面	平成 30.3.16	桐ヶ丘 4-209-1	業葉神社
	無形民俗	向山神楽獅子の神事	—	昭和 44.3.14	向山町 2-30	向山神楽獅子保存会
	無形民俗	ちんころ祭の三番叟	—	昭和 54.7.28	宮路町 53	住吉ちんころ祭委員会
	無形民俗	銭太鼓踊り	—	平成 13.6.1	成岩本町 4-5	成岩銭太鼓保存会
	無形民俗	板山万歳	—	平成 21.5.1	板山町 15-168	愛知・半田・板山万歳保存会
	無形民俗	下半田祭礼行事	—	平成 31 年 3.8	東本町 2-23	下半田祭礼保存会
	無形民俗	乙川祭礼行事	—	平成 31 年 3.8	乙川殿町 97	乙川祭礼保存会
	史跡	亀崎渡船場跡	—	昭和 54.4.1	亀崎町 2-234-1	神前神社
	史跡	大池古窯	3 基	平成 8.8.1	鷯ノ池町 33-1	半田市
	天然記念物	津島社のムクノキ	1 樹	昭和 52.10.1	住吉町 8-50	津島社天王講
	天然記念物	常福院のソテツ	1 株	昭和 53.4.1	岩滑中町 7-23	常福院
	天然記念物	萬三の白モッコウバラ	1 樹	平成 23.12.1	中村町 1-18	個人

※所有者に同意を得た文化財のみ記載しています。

③国登録有形文化財

種 別	名 称	員 数	登録年月日	所在地	所有者または管理者
建造物	半田赤レンガ建物（旧カプトビール工場）	3 棟	平成 16.7.23	榎下町 8	半田市
建造物	小栗家住宅	8 棟	平成 16.3.2	中村町 1-18	個人
建造物	愛知県立半田商業高等学校正門門柱 （旧愛知県知多郡立高等女学校正門）	1 基	平成 29.6.28	白山町 2-30	愛知県

（３）保存修理・保存施設整備補助事業

令和 3 年度は 9 件の補助金事業を実施し適切な保存修理等を進めた。

名 称	種 別	補助事業者	内 容
半田山車祭りの 山車（26 輛）	有形民俗	乙川浅井山宮本車	上山人形復元新調
		成岩南組南車	防犯カメラ設置
		成岩西馬場神車	防犯カメラ設置

		成岩東組旭車	防犯カメラ設置
		西成岩西組敬神車	壇箱・脇障子・鋸金具修理、ゴマ新調
			山車蔵兼鞘改修
半田ハリストス 正教会	有形（建造物）	半田ハリストス正教会	聖堂基礎修理、防犯カメラ設置
阿弥陀如来立像	有形（美術工芸品）	順正寺	仏像（彫刻）修理
亀崎潮干祭の 山車行事	重要無形民俗	亀崎潮干祭保存会	東 組：綱割装束復元新調

（４）旧中埜家住宅保存管理事業・保存活用事業

令和３年度の主な公開等活用事業は次のとおり。

イベント名・内容等	日程等	場所等
旧中埜家住宅で桜の写真を撮ろう	令和３年４月７日（水） ～４月３０日（金）	旧中埜家住宅、博物館
「半田市文化財カード」配布開始	令和３年４月１７日（土）～	博物館、旧中埜家住宅他
旧中埜家住宅自由見学日	令和３年５月１３日（木） ～５月１５日（土） ※緊急事態宣言発令のため中止	旧中埜家住宅
解説資料・ぬり絵等オンライン資料の拡充	令和３年５月下旬	市ホームページによる発信
初夏の旧中埜家住宅一般公開	令和３年５月３０日（日） ※緊急事態宣言発令のため中止 （１１月に延期）	旧中埜家住宅
ブラアイチ in 半田 （愛知県河川課主催）	令和３年６月１３日（日） ※緊急事態宣言発令のため中止 （令和４年度以降に延期）	旧中埜家住宅他市内各所
旧中埜家住宅ポストカードプレゼント	令和３年７月７日（水） ～８月１日（日）	博物館
旧中埜家住宅 どうぶつたちのなつやすみ	令和３年８月５日（木） ～９月５日（日）	旧中埜家住宅、博物館
旧中埜家住宅・桐華学園 刺し子のコースターづくり	令和３年１０月９日（土）	旧中埜家住宅
建築１１０年記念 第５回重要文化財旧中埜家住宅特別公開	令和３年１１月６日（土）、 １１月７日（日）	旧中埜家住宅
秋の旧中埜家住宅一般公開 －半六さんの別荘で音楽を楽しもう－	令和３年１１月２０日（土）	旧中埜家住宅
旧中埜家住宅窓装飾 「クリスマスプレゼントは何個あるかな？」	令和３年１２月１日（水） ～令和４年１月７日（金）	旧中埜家住宅、博物館
半田まちなか成人式（市民・事業者有志主動）	令和４年１月９日（日）	旧中埜家住宅他市内各所
旧中埜家住宅外観装飾	令和４年２月２３日（水祝） ～５月５日（木祝）	旧中埜家住宅

9. 入館者数

	平成 31・令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度	
	日 数	人 数	日 数	人 数	日 数	人 数
4月	26 日	5,851 人	0 日	0 人	26 日	5,449 人
5月	27 日	7,019 人	0 日	0 人	26 日	6,717 人
6月	26 日	7,932 人	25 日	4,597 人	26 日	6,101 人
7月	26 日	8,753 人	27 日	5,347 人	26 日	7,710 人
8月	26 日	9,183 人	26 日	4,814 人	25 日	7,180 人
9月	25 日	8,823 人	26 日	4,585 人	26 日	5,178 人
10月	26 日	6,481 人	27 日	5,630 人	26 日	7,453 人
11月	26 日	6,302 人	25 日	4,603 人	25 日	5,445 人
12月	24 日	6,672 人	24 日	3,456 人	24 日	5,349 人
1月	24 日	10,165 人	24 日	6,188 人	24 日	9,960 人
2月	24 日	11,479 人	24 日	8,395 人	24 日	8,054 人
3月	2 日	468 人	26 日	5,737 人	26 日	5,806 人
合 計	283 日	89,128 人	254 日	53,352 人	304 日	80,402 人

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和 2 年 3 月 4 日～ 5 月 31 日まで臨時休館

目 次

紀 要

江戸時代の庄屋の仕事（第二報）	半田市立博物館専門員 柴田邦彦	25
宗門改帳に見られる態様	半田市立博物館専門員 柴田邦彦	44

江戸時代の庄屋の仕事（第二報）

半田市立博物館専門員 柴田 邦彦

前号に引き続き、「江戸時代の庄屋の仕事」について報告する。

庄屋の仕事 7 「犯罪と裁き」

村は警察機能をもっていた。犯罪が起こると犯人を捕らえ、名古屋の奉行所まで連行するのは村の役割であり、その費用は村の負担であった¹⁾。

乙川文書資料 No.5-60 判決書（罪科の判決書）

七十敲という重い刑罰と、
所払いの判決の内容。
※ここでは、犯罪者の名前は
伏せておく。

生所知多郡乙川村□□倅
当時同郡亀崎村間瀬
長左衛門召仕（召使）
□□
一其方儀去々年二月
己来□□□□□□
同類二成令盗不届二付
七拾敲之上生前乙川村
并令盗候亀崎村差塞
御城下五里之内構
追放申付者也
御領分中之外他領
他国二住居致間敷候
申
正月廿九日

乙川文書資料 No.5-61 判決書（所払いの範囲の判決書）

生所知多郡乙川村□□倅
当時同郡亀崎村間瀬長左衛門召仕
□□
右八
御城下五里之内構
追放場所大旨
東 尾州愛知郡之内
山口村
同春日井郡之内
瀬戸村
水野村
同春日井郡之内
明知村
同丹羽郡之内
楽田原新田
羽黒村
前野村
同中島郡之内
一之宮村
同中島郡之内
荻原村
森上村
甲新田

西成岩文書資料 No.10-9 洪水大風雨二付御普請扣帳

安政貳卯九月	庄屋 惣右衛門扣
// 三辰六月迄勘定	
洪水大風雨二付御普請扣帳	西村庄屋 松助
	八兵衛
本文	
三 豊左衛門	
神戸川南堤梶才	
馬六尺八寸	
高壱間	
根式間三尺	
ノ間二壱坪九合八夕	
ノ長四間式尺	
此土八坪五合九夕	
同所悪水	
馬五尺	
高四尺八寸	
根式間三尺	
ノ	
長四間半	
間二壱坪式合四夕	
此土五坪五合八夕	
馬四尺	

根壱丈	
高三尺七寸	
長四間半	
間二七合壱夕	
此土三坪式合三夕	
ノ拾七坪四合	
坪三勺四分七リ	
此金壱兩ト三分七リ	
外二	
式勺 土ノ石橋玉	
小堤乗所	
七勺五分 杵伏替三人	
手間遣し	
ノ	
卯十二月	
内金三分三朱渡ス	
残テ 拾三勺六分三リ	
中略	
天神田横川車心南西 半兵衛	
高五尺	
根三間壱尺	

馬壱間	
長拾式間	
間二壱坪四合七夕	
此土廿式坪四合七夕	
中略	
七ケノ五拾四坪四合四夕	
五勺〇三リ(力へ)	
此式百六拾八勺式歩	
内	
三兩式分式朱渡	
残テ 三分ト五勺七分	
辰五月式日 宮竹殿	
八兵衛へ相渡し申候	
以下略	

大風雨で神戸川堤等が破損し、破損箇所毎の工事内容、必要な杭や土の量、価格の記録と支払いの経過を記録している。

乙川文書追加 2 資料 No.5- 4 安永五申定式御普所御配符

前潟、海面の浚渫工事の配賦書（見積もり書、指図書）であり、役所の見積もりを村が調査し、間違いのないため工事を進めてよいとの記載がある。

乙川村	前潟江浚船入通	三股 6	一長 貳百九拾間	口三間	堀底 貳間半	深成 壹尺八寸	出来五軒曲輪悪水落	杵上端 6 貳尺深下八	八軒曲輪杵上端 6	貳尺四寸深二成	土	人九百五拾壹人 貳分	同所浜海面	一長三百間	巾成 貳間	深成 壹尺五寸	出来深三取合下	水行二而可改	土	人五百貳拾五人	人足 8 千四百七拾六人 貳分	内五百九拾人五分	四分通仕捨	残八百八拾五人七分
-----	---------	------	----------	-----	--------	---------	-----------	-------------	-----------	---------	---	------------	-------	-------	-------	---------	---------	--------	---	---------	-----------------	----------	-------	-----------

右八当申春其村	御普請所如此申付候	当月廿九日迄二入念	為致出来注進可申来候	間尺改可請取之者也	安永五	申四月	御国左衛門代	中嶋仙太郎	同 小川大助	三浦幸右衛門	右村庄屋	右御普請所無	相違出来間尺相改	請取之者也	申七月八日	伊藤定左衛門	中嶋仙太郎	新井宇兵衛	三浦幸左衛門代	谷川兵助	同断	酒井俊平	同断
								㊦	㊦	㊦						㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦

庄屋の仕事 9 「竹木の伐採」

乙川文書追加 2 資料 No.6-35 乍恐奉願上候御事（松木伐採願）

乍恐奉願上候御事	
弁財天森之内	但シ目通式尺壹寸廻り
一松木 吉本	長八尺
愛宮森之内	但シ目通四尺式寸廻り
一同 吉本	長八尺五寸
同断	
一同 吉本	但シ目通三尺廻り
長七寸	
若宮森之内	但シ目通壹尺八寸廻り
一同 吉本	長六尺五寸
同断	
一同 吉本	但シ目通式尺四寸廻り
長七尺五寸	
天王森之内	但シ目通三尺六寸廻り
一同 吉本	長九尺
権現森之内	但シ目通壹尺八寸廻り
一同 吉本	長七尺
同断	
一同 吉本	但シ目通式尺七寸廻り
長八尺五寸	

神社境内の枯松を伐採することと、それを神社修復の費用にすることを、鳴海陣屋を通じて寺社奉行に許可願いをしている。御林山の樹木のみならず、神社仏閣の樹木も藩の所有物であり、村が勝手に切ることはできなかった。藩（寺社奉行、山方奉行）に許諾を得て初めて伐採ができた。その許諾を得るのも、庄屋の仕事であった。

同断	
一同 吉本	但シ目通三尺六寸廻り
長九尺五寸	
右者私扣之当村松森之内五ヶ所二而枯松如此	
御座候處伐採之私扣之当村若宮八幡社今般	
修復之助成二仕度奉願上候右願之通相叶	
申候様乍恐寺社御役所江被仰達被成下候様	
奉願候以上	
文化五年	
辰六月	
知多郡乙川村祢宜	
神原和泉	
鳴海	
御役所	
右和泉御願被申上候通相違無御座候間	
相叶申候様寺社御役所江被仰上被下置	
候様奉願上候以上	
右村庄屋	
儀平治 印	
氏子総代	

庄屋の仕事 10 「徴用・夫人足」

徴用とは、代官所一行様や藩重役一行様の村巡見などに際して、宿、食事、荷物や文書の運び人足を提供する場合と、藩の指示により村外に人足として出かける場合の2種類あった。

藩重役の巡見では、「西成岩文書資料 No.9-1 渡辺半蔵為巡視二付勘定ノ上帳」に見られるように、一行9人、常楽寺と塔中四院を宿として借り、村人が人足としてノ96名借りだされ、費用14両余を使っている。

戦の荷役人足では、「西成岩文書資料 No.9-17 大阪ヨリ芸州行人足勘定帳」に見られるように、元治2年3月の徳川幕府の長州征伐軍総裁に尾張義勝が選任されたためと思われるが、成岩村より69人の夫人足が派遣されている。元治2年3月から元治3年3月までの期間、村は合計380両余の費用をかけた。

黒船がやってきた幕末では、海岸防御のため、140人余で後詰部隊を編成していた。西成岩文書では、このほか23件の夫人足の資料が保存されている。

西成岩文書資料 No.9-1 渡辺半蔵為巡視二付勘定ノ上帳

天保十一年		渡辺半蔵殿為巡視二付勘定ノ上帳		子九月廿二日		村役人		御本陣詰	
一御用人		山田喜右衛門様		一御小納戸		安藤頼母様		一御刀伴	
岩村茂平様		一御側		酒井脇江様		市川九兵衛様		一御医師	
佐枝玄達様		一吟味役		水野善九郎様		一御祐筆		奥村宗六様	
平岩仙悦様		一御坊主		九月十七日		一老人		久四郎	
右八置板之間次小遣銭貳百文渡ス		・貳百文		// 廿日		一聞次		太右衛門	
宗右衛門		大浜村常滑村迄行							

・四百文	一同 蔵兵衛	右八機並村行錢四百文渡又	一同 常七	右者須佐村行錢四百ノン相渡し	一同 佐平	右者大井村行 小遣錢四百文相渡し	・五百文	御本陣	村役人	杉本 市兵衛	蟬川 庄五郎	傳之右衛門	吉右衛門	伊助	七左衛門	治郎兵衛	長左衛門	庄八	弥五右衛門	林平	伴蔵	善蔵
								人足														

超世院	一吉番	村役人	孫次郎	甚三郎	遣淨院	一貳番	村役人	治兵衛	茂七	真如院	一三番	村役人	東兵衛	重蔵	来迎院	一四番	村役人	奎左衛門	傳助	一富都屋	久三郎	重蔵	新六	源蔵
彦七		人足	吉左衛門	佐平				与三右衛門	六左衛門				七兵衛	常右衛門	文太郎		萬蔵	治右衛門	お斗八					

一会所	村役人	市郎左衛門	善平	宗右衛門	藤右衛門	是迄	三拾六人	十貫八百文	一鉋丁方	・九百文	子分二	・百文九四郎分	一火之番役	善兵衛	勘兵衛	久四郎	朝右衛門	源右衛門	儀八	惣兵衛	常蔵	太郎右衛門	和兵衛	藤吉	橙七

・四百文	傳左衛門
・貳百文	
一馬五疋	
	李左衛門
	孫藏
	六左衛門
	久左衛門
	吉兵衛
・五百文	
前日二	
常樂寺そうじ人足	
一吉藏 庄五郎	
一久三郎 野助	
一庄兵衛 八右衛門	
超世籠同人足	
吉左衛門	
佐平	
遣浄籠同人足	
与三右衛門	
六左衛門	
真妙籠同人足	
常右衛門	

東邊籠同人足	七兵衛
万藏	
治右衛門	
〆十四人	
三貫又	
御用送り人足	
弥三右衛門	
喜七	
義兵衛	
治助	
久兵衛	
清左衛門	
藤次郎	
清八	
徳右衛門	
貝助	
惣左衛門	
常藏	
李藏	
藤助	
仁右衛門	
和助	

西	
惣兵衛	
清六	
栄左衛門	
中略	
又左衛門	
喜助	
惣定	
庄助	
徳右衛門	
定藏	
豊助	
〆四十六人	
・壹貫四百三十六文	
一恵米壹石〇四升	東兵衛
一同米壹石五斗八升	治兵衛
〆貳石六斗貳升	
代貳両三分卜九匁六分七厘	

一上茶	松本代
式匁五分	
一味噌四貫目	宗右衛門
一同耆ノ式百六十匁	同人
代ノ耆貫三百十五文	
富都屋用口	
一草大耆束	庄五郎
・五十式文	
同所用口	
一わ郎古も式枚	同人
・廿四文	
一炭四俵	村方
・十匁	
大東	
一刻木 百八拾五わ	同
・耆分卜拾式匁七分	
一松者二 二丸	常樂寺
・五十文	
一金式朱	同寺
菓子	
一拾匁	仙台屋

酢代	
一百文	吉右衛門
三五かへ 九四入	
一拾六匁耆分式厘	善平
	取次
一六百四十四文	八百屋
	嘉兵衛
ろうそく大小	
一金式分	阿久比
	伊兵衛
一太ろうそく	
十丁	村方ヨリ
・四百文	取かへ
一中ろうそく	
三十七丁	同
・六百十六文	
一耆貫六六十四文	下半田とう婦屋
	与兵衛

一四百文	阿久比
	仁兵衛
一耆貫五百八十文	常滑八百屋
	重兵衛
志ゆへ	
一百六十八文	友助
一酒式升	同人
代三百五十式文	
一式百文	同人
右二品御上様中元分	
ノ七百廿四文	
わらじぞうり	
一耆貫百拾式文	たてや
わらじぞうり	
一耆貫百拾式文	たてや
わらじぞうり	
一耆貫百拾式文	たてや
油耆升	七左衛門
一六百廿四文	北阿ふうや
油耆升	治兵衛
一六百廿四文	
油耆升	阿ふうや

油壹升	同人
一五月六日分	村方分
油壹升	北
一五月六日分	糸助
一上茶	村方ヨリ
代拾壹匁分位	
酒代	
一 金壹兩貳分ト	市兵衛
貳匁分八厘	
とう婦廿壹	友四郎
一 貳百拾八文	
一金貳朱	吟味役
	水野常右衛門様
	遣又
一金壹分貳朱	加役同心衆江遣又
	三人遣又
一金壹朱	天都屋へ遣又
一八拾壹人前	夜着

一三人前	蒲団
	加役衆
夜着蒲団	同心衆
八拾四人前	壹人二付
	七十式文ツ、
・代六 三百文	
一 三拾匁三分五厘	坂本屋
	孫左衛門
・錢三 〇四文	
金 七兩壹分	
	拾貳匁分七厘
◎參拾八 六百八十三文	
代金五兩貳分ト	壹匁五分九厘
一金壹兩也	本坊
一金壹兩也	四ヶ寺
一七匁五分	芳藏
金貳兩ト七匁五分惣	拾五兩ト
	六匁分六厘
惣 拾五兩ト	
六匁分六厘	
内壹兩之拂引	

渡辺半蔵は、尾張藩の家老職。
この文書には、家老がどのような用件で村を巡視したのか記載がない。
九人の供を連れてきたのに対し、村は宿泊の手配、食事の手配、お酒、お茶、お菓子、荷物運び人足等の世話をし、総額十四兩余の費用を使っている。

八拾四兩ト
六匁分六厘
壹分二成

西成岩文書資料 No.9-10 異国船渡来之節御用人足

四拾貳番	成岩村	異国船渡来之節御用人足	○鳴	安政三年辰十月	西村	覚	幟持	六左衛門	栄七	差添	要三郎	久兵衛	治右衛門	九八	差添	助平	太郎左衛門	勘助	常七	孫四郎	和兵衛	和七	重蔵	宇吉	竹陣分	遠見	高張
------	-----	-------------	----	---------	----	---	----	------	----	----	-----	-----	------	----	----	----	-------	----	----	-----	-----	----	----	----	-----	----	----

年寄	伴蔵	惣右衛門	八兵衛	中略	見廻役	傳兵衛	安右衛門	清六	彦七	善六	忠助	治郎兵衛	六左衛門	弥左衛門	源六	惣兵衛	傳右衛門	弥五右衛門	源助	新六
----	----	------	-----	----	-----	-----	------	----	----	----	----	------	------	------	----	-----	------	-------	----	----

中略	兵籠方	善七	源蔵	米助	利右衛門	林平	万蔵	中略	右人足締方	佐平	磯右衛門	忠兵衛	又左衛門	治兵衛	儀平	半兵衛	徳右衛門	八蔵	ノ
----	-----	----	----	----	------	----	----	----	-------	----	------	-----	------	-----	----	-----	------	----	---

異国船の情報収集や、尾張藩軍隊の後詰めの目的での徴用と思われるが、西成岩村では 140 人余の人数を出す計画を持っていたことがわかる。

庄屋の仕事 11 「調達金」

尾張藩は、延宝 4 年（1676）から大掛かりな調達金を始め、延宝 8 年（1680）には 4 万両余を調達している²⁾。調達金は藩の借金であるが、返済は少なかったようである。尾張藩は実質 100 万石余の大家であるが、木曾川堤の修復、江戸屋敷の火災、飢饉対策、長州征伐など多くの出費を抱え、常に赤字経営であり、調達金を継続的に行ってきた。西成岩村も例外ではなく、調達金を上納している。

「西成岩文書資料 No.7-18 証書」は、安政 3 年から明治 2 年まで累計 1,755 両の調達金上納をしている内容が分かる。「西成岩村で西成岩文書資料 No.7-5 柳原五ヶ年調達割符帳」や「資料 7-6-3」に見られるように、調達金を百姓に割付けて集金し上納していた。割付と回収の手間は大変だったと思われる。

乙川文書には、明和 4 年～寛政 3 年の間に 600 両余、天保年間に 200 両余の調達金が見られる。

尾張藩は、幕末には 270 万両余の調達金（未返済分）残があった。明治新政府は弘化以前の借財を失効させたので、尾張藩は残った 26 万両余を返済したのみであった。

西成岩文書資料 No.7-18 証書

<p>「表紙」</p>		天保十三年
<p>調達名前書上帳</p>		
<p>寅五月 西成岩分下書</p>		
<p>「本文」</p>		
一金三両善平		
一貳両貳分	太右衛門	
一金五兩惣右衛門		
一金四兩東兵衛		
一金貳両三分	庄三郎	
一金三兩八兵衛		
一金三兩市兵衛		
一金貳両貳分	清兵衛	
一金貳両貳分	甚三郎	
一金壹兩傳兵衛		
一金貳兩庄七		
一金壹兩貳分	伴左衛門	
以下略		
一金壹分貳朱	兵七	
一金壹分助平		
一金壹分小兵衛		
一金壹分要助		
一金壹分太郎左衛門		
一金壹分甚六		
〆八十一		
〆金八拾四兩貳分也		

西成岩村では、藩の調達の要望に対し、何らかの基準によって村人個々人に調達金を賦課していたと思われる。乙川村では、一本釣りの形で調達金が出されている。

乍恐奉願上候御事
 天明八申九月調達
 一金二拾兩也 知多郡乙川村取扱
 吉三郎
 金九兩拾貳文 天明九酉年ノ寛政子年迄
 被下置候御利足金
 天明申十二月調達
 一金二拾兩也 同人
 金七兩卜拾貳文 寛政元酉年ノ同三亥年迄
 被下置候御利足金
 利金拾六兩壹分卜六文
 残元四拾三兩貳分卜六文
 右調達金之儀是迄追々被下置候御利足
 金遠元金御返シニ相立残金拾五ケ年賦之筈ニ
 被為仰出た趣奉畏候然処当年之儀先達而
 酒屋共ノ段々奉願上候通此節酒屋共八右
 江戸表ノも一圓金子為差登不申当暮
 諸払必至与差詰リ甚以迷惑難儀仕候
 就者恐多御願二八御座候得共右之趣厚御勘考
 其上御憐憫を以被為聞召分何卒拾五ケ年賦ニ
 被下置候分を当暮七分返ニ被成分一緒ニ御返シ被候様ニ
 幾重も幾重も奉願上候右願之通被為仰付被下置候八バ
 難有仕合ニ可奉存候以上右村取扱
 吉三郎

同村金主
 徳左衛門
 子十二月
 井田忠右衛門様
 右兩人御願申上候通相違無御座候間願之通
 被為仰付下置候様偏奉願上候以上
 右村庄屋
 平次郎
 三十ケ年賦
 一金壹兩 壹匁四分貳リ 吉三郎 ㊤
 同
 一金壹兩 壹匁四分貳リ 山 杢右衛門 ㊤
 同
 一金壹兩 壹匁四分貳リ 平 杢 八左衛門 ㊤
 同
 一金三分 拾貳匁九分 平 杢 長左衛門
 同
 一金壹分 五匁九分貳リ 義平治
 利拾壹兩三分 貳匁貳分
 調達金三拾ケ年賦
 卯暮ノ辰正月御返ニ
 被下置候分御配符之写

乙川村	与五蔵	藤八	吉三郎	一元金廿口ノ百八拾四兩壹分九匁 三拾ケ年符〔賦〕 卯年ノ	一金六兩貳朱 壹匁三分	乙川村	徳左衛門	忠五郎	元金五拾壹兩 三拾ケ年符 卯年ノ	一金壹兩貳分ト□四匁五分	徳左衛門	元金三口ノ八拾壹兩貳分六匁 三拾ケ年符 卯年ノ	一金貳兩貳分貳朱 五匁七分	与平□文	元金八兩三分三匁 三拾ケ年符 卯年ノ
-----	-----	----	-----	------------------------------------	-------------	-----	------	-----	------------------------	--------------	------	-------------------------------	---------------	------	--------------------------

書面の初めの部分は、江戸の酒屋からの入金がないので暮を越せない、返済残金を七掛け（70%）でよいので、暮迄に返済してほしいと藩に願い出たもの。

次の書面は、藩が調達金の返済残金を 30 ケ年賦（30 年で返す）とするとのことであり、調達金を出した者毎に、今後の年回返済見込み額を記したもの。

一金壹分貳匁六分	忠九郎	元金二口ノ廿四兩三分三匁 三拾ケ年符もの卯年ノ	一金壹分四匁六分
----------	-----	----------------------------	----------

庄屋の仕事 12 「起：開墾」

西成岩村にも西新田、寅新田があった。西成岩村の新田の比率は全体の石高 940 石の内 9 石（1%）に過ぎないが、成岩村全体では全体の石高 3,502 石、新田石高 896 石（25%）とかなりあった。

新田開墾は起（おこし）と言われる。起の事業は、まず鳴海陣屋に申請を出して許可をもらい、起が終わると、筆別の品位と石高の見取と台帳を作成する、という流れであった。開墾対象の山地や海岸は藩の所有であり、開墾の許可、開墾上納金が伴い、開墾が済んだら筆（所有者）別の田畑の品位・高の見取（決定）、台帳作成の事務処理が必要であった。

榊原伊三家文書

乍恐願上候御事											
一彦洲裏御林之内田畑起方二											
可相成所御見立御願可被下候尤相叶											
地面請取候以上者御年貢并雜用											
米共壹メ二而当組ノ諸事追											
例之通大口等大引合勘定二而年々											
急度相納可申候間何方ニ差支無之											
場所御見分被成下置候様仕度											
奉願上候為後日田畑起方願治定											
一札依而如件											
彦洲百姓											
要助 印											
嘉永貳年 "											
庄左衛門 印											
酉閏四月 "											
仙蔵 印											
兵七 印											
彦七 印											
" "											
安右衛門 印											
善四郎 印											
其外双代											
清助 印											
" "											
定助 印											
" "											
孫右衛門 印											
中略											
御庄屋											
伊助殿 以下略											

この文書は、成岩村彦洲（枝郷）の百姓連が、「成岩村の御林の内で開墾をしたいので、開墾してもよい場所を探してほしい」と、成岩村の庄屋を通じて藩にお願いした文書である。開墾は、藩の許可が必要であった。

岩滑文書資料 No.6-21 御林御定納山之内起方申付書

上納山の開墾を許す書状。
開墾中においても、式斗四升五合
の年貢上納が義務付けられていた。

御林 上納山之内 一起方上納山壹町五反 三畝拾歩 当西辰迄八年 上納米式斗四升五合 右之通起方申付候 酉八月 (付箋) 圓七又兵衛他ノ初 新起方上納 山方納	

庄屋の仕事 13 「お救い金、お救い米」

大風、大雨の被害、干ばつの被害が大きい時、藩は村にお救い金（米）を下賜した。村内の困窮者に村内の者が支援金を施すこともあったが、藩はその者に褒美を下賜することがあった。また、藩主の初の御国入りにお救い金が出賜された。時には、80 歳以上の高

齡者とその家族にお酒などが下賜された。藩は年貢を上納させるだけではなく、困窮者に援助する姿勢もあった。庄屋は、藩からのお救い金（見舞い金）を被害にあった者に分配していた。

乙川文書追加2 資料 No.5-80 御地頭様大風手当被下置候分割賦帳

表紙	弘化四年 乙川村	御地頭様	大風御手当被下置候分割賦帳	未六月 庄屋 長作 代	本文	一銀五匁 いし	孫八 印	一 同五匁	八兵衛 印	一 同五匁 市蔵	後家 印	一 同五匁	藤七 印	半倒之分	一銀三匁	次郎兵衛 印	一 同三匁	相渡申 五作 印	中略	一 同三匁	久助 印	一 同三匁	儀右衛門 印	一 同三匁	茂兵衛 印	一 同三匁 庄兵衛	後家 印	右者御地頭様夫々倒家二付御手当被下候分如此割賦渡申候以上	未六月
----	----------	------	---------------	-------------	----	---------	------	-------	-------	----------	------	-------	------	------	------	--------	-------	----------	----	-------	------	-------	--------	-------	-------	-----------	------	------------------------------	-----

岩滑文書資料 No.6-32 お救い金下ケ渡書付

知多郡 岩滑村	銀式両ツ、	長三郎	源次郎	又蔵後家	八百七後家	文四郎後家	奎右衛門	金式朱 三郎右衛門	下々御救筋之儀二付兼々	思召之趣被為在候處	思召通不被為行届候得共	今般	御入国茂被為在候折柄二付	身薄難渋之者共御救可被	遊旨之	御沙汰二而	御手元金より御金御下ケ	相成候間其方共江頭書	之通差遣候難有頂戴	可仕候	十二月
---------	-------	-----	-----	------	-------	-------	------	-----------	-------------	-----------	-------------	----	--------------	-------------	-----	-------	-------------	------------	-----------	-----	-----

藩主の初めての御国入りに際し、難渋者に対し金銀が下賜され、これも庄屋が手配したと思われる。

庄屋の仕事 14 「寺社」

寺社に関わる行政課題、神宮、住職の退任、新任許諾願い、寺院新築・修繕の許諾願い、寺社地内の植栽の問題解決申請、寺院の開帳許諾申請などを行った。

乙川文書追加 2 資料 No.6-35 奉願上候御事（松木伐採願）

乍恐奉願上候御事	
弁財天森之内	同断
一松木	同断
愛宮森之内	同断
一同 壹本	一同 壹本
但シ目通四尺貳寸廻り	但シ目通三尺廻り
長八尺	長七尺
若宮森之内	同断
一同 壹本	一同 壹本
但シ目通壹尺八寸廻り	但シ目通四尺四寸廻り
長六尺五寸	長七尺五寸
天王森之内	同断
一同 壹本	一同 壹本
但シ目通三尺六寸廻り	但シ目通四尺貳寸廻り
長九尺	長七尺
権現森之内	同断
一同 壹本	一同 壹本
但シ目通壹尺八寸廻り	但シ目通四尺四寸廻り
長七尺	長七尺

一同 壹本	但シ目通四尺七寸廻り
同断	長八尺五寸
一同 壹本	但シ目通三尺六寸廻り
長九尺五寸	
右者私扣之当村松森之内五ヶ所二而枯松如此	
御座候處伐採之私扣之当村若宮八幡社今般	
修復之助成二仕度奉願上候右願之通相叶	
申候様乍恐寺社御役所江被仰達被成下候様	
奉願候以上	
文化五年	
辰六月	知多郡乙川村祢宜
鳴海	榊原和泉
御役所	
右和泉御願被申上候通相違無御座候間	
相叶申候様寺社御役所江被仰上被下置	
候様奉願上候以上	
氏子総代	儀平治 ㊤

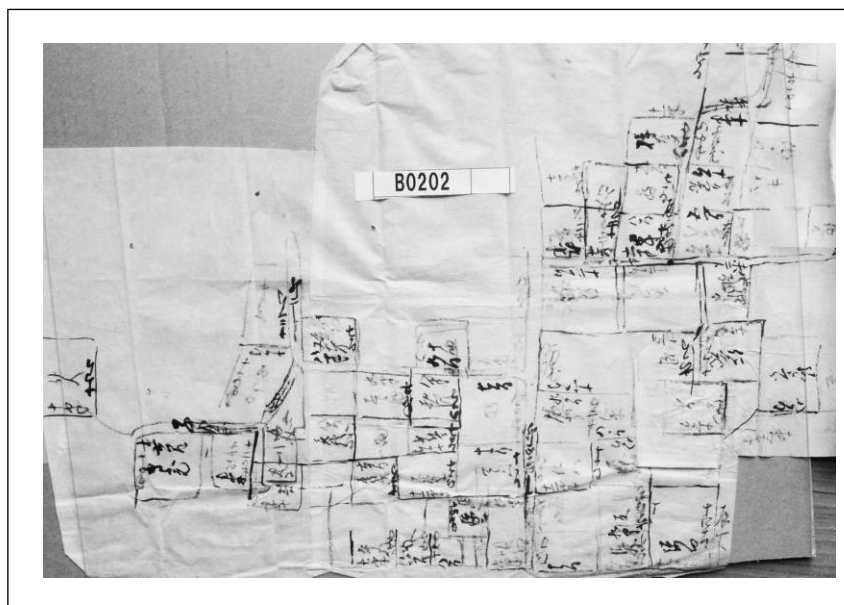
乙川文書追加2 資料 No.6-27 奉願上候御事（後住願）

奉願上候御事
 当村浄土真宗正通寺住持去ル四月被致
 病死其節御達シ申上候処血縁無御座二付同郡
 亀崎村浄願寺弟当年廿才二罷成申候大書卜
 申僧法縁も御座候二付右僧貫請後住二居申度
 奉存候尤庄屋并旦方村中納得仕何方も故障
 無御座候間右願之通相叶申様二寺社御奉行所江
 被仰達被下候八ハ難有可奉存候以上
 天明元年
 丑八月
 善三郎
 長三郎
 新左衛門
 佐分源左衛門様

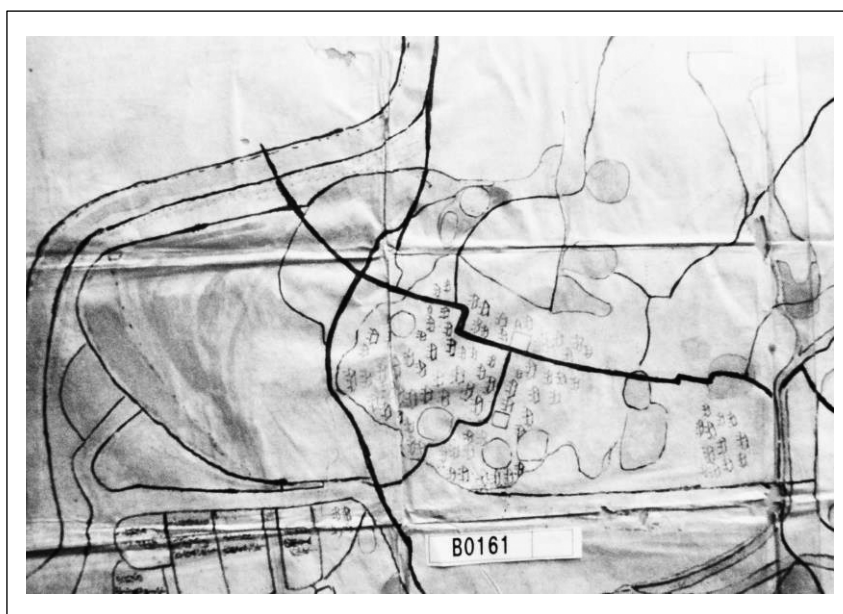
庄屋の仕事 15 「絵図（地図）」

絵図（村の地図）は、村の経営にとって重要であった。何がどこにあるのかを明確にするため、村全図や地域ごとの地図（田畑、塩田、家並図）を作っていた。

乙川文書家並図



乙川村絵図（下絵）



※資料 1：木村克之著 続・知多半島を読む 愛知県郷土資料刊行会発行 平成 3 年 2 月 25 日

※資料 2：尾張藩財政と尾張藩社会 2011 年 3 月 25 日発行 杉本精宏著 清文堂出版(株)発行

宗門改帳に見られる態様

半田市立博物館専門員 柴田 邦彦

半田市立博物館が保存している古文書の中に、乙川文書として江戸期の宗門改帳（江戸初期は切支丹を洗い出すための人別帳であったが、後に戸籍簿としての役割に重点が置かれた書類）が 87 点ある。

宗門改帳には、家族毎に戸主、女房、子供、懸り人（縁戚者、雇人など）の性別、年齢、戸主との関係、旦那寺、石高、死亡、出生、転出、転入、五人組の組み換えなどの情報が書かれている。これらの情報を集計することにより、当時の、村人の態様が分かってくる。本稿では、資料として乙川文書資料 No.1-51-1～1-51-6、資料 No.1-53-5、1-53-7 を使った。

乙川文書の宗門改帳は、毎年 8 冊に分けて作成されていた。単年度で 8 冊揃っていないため、本稿では、天保 7 年の第 1 冊から第 4 冊、第 6 冊、第 8 冊、天保 15 年の第 5 冊、第 7 冊を合わせて、8 冊とみなした。

以下、年齢構成や家族別の石高を調査し、その特徴を検討した。

態様その 1 年齢構成（宗門改帳天保 7 年第 1 冊より）

年 齢	男 性	女 性
～10 歳	55	33
～20 歳	49	48
～30 歳	34	36
～40 歳	35	27
～50 歳	39	37
～60 歳	15	21
～70 歳	20	15
～80 歳	8	12
～90 歳	3	4

特徴

- 男女とも 50 歳を過ぎると、死亡する者が多くなる。
- 天保 7 年（1836）には、男女とも 80 歳代の長生き者がいた。

態様その2 家族別の石高（米の取れ高）

石 高	家族数
無高	548
～2石	64
～5石	185
～10石	89
～15石	15
～20石	4
～25石	2
～30石	2
31石以上	3
合 計	912

特徴

- この年代の乙川村の総家族数は912であり、その内364家族が高持百姓（田畑を所有）、残り548家族が無高百姓（小作人）であった。
- 全体の石高は、今回の集計では1,837石だが、石高10石以上の26家族（2.9%）で506石（28%）を占めるという寡占化が起こっていた。なお、天保7年の免定（年貢の指示書）の石高1,844石と差があるが、元の資料を天保7年と天保15年の資料とを合わせて使ったためと思われる。
- 石高が極端に多い家族は3家族あり、89石4斗、48石4斗、31石9斗の内容であった。

半田市立博物館 年報・紀要
令和3年度

発行日	令和5年3月
編集発行	半田市立博物館 半田市桐ヶ丘 4-209-1
印刷	半田中央印刷株式会社

